

もし世界で鳥インフルのパンデミックが起きたなら、毎年インフルエンザワクチンを接種している人々は軽症で済む可能性がある。

毎年作成されるインフルエンザワクチンは、最も流行する可能性のある株を用いて作成される。規則的に加えられる抗原として、ウイルスのN1 タンパクがあるが、それによって産生される抗体がH5N1 ウイルス、または鳥インフルを攻撃する可能性が、聖ユダ小児研究病院の研究者によって報告された。

”季節性インフルエンザに対するワクチンが、間違いなくH5N1 ウイルスから人々を守ることが出来るかについては、結論はまだ出せない”、と聖ユダ小児研究病院の感染症部門ウイルス部のリチャード・J・ウエビーは慎重に説明しているが、”しかし我々の得た初期の研究結果は、この方向性の研究は価値がある可能性を示唆している”、と付け加えている。

ウエビーは、2月13日発行の、オンライン医学雑誌PLoS Medicine at [www.plosmedicine.org](http://www.plosmedicine.org)

に掲載の論文の筆頭著者である。

鳥インフルウイルス表面のN1 タンパクの量は広く変動しているが、通常、H5 タンパクに覆われている。しかしN1 タンパクを攻撃する抗体が、ある程度の量のウイルスに作用出来るならば、それは結果的に鳥インフルを軽症に終わらせる可能性がある。

一本のタイヤに穴が開くと、車は止まるように。

もし聖ユダ病院の初期の研究が確認されるならば、毎年作成されるインフルエンザワクチンに、N1 タンパク(抗原)の量を増加させる研究につながる可能性がある。